Yearly Digest

YMFS ヤマハ発動機スポーツ振興財団

2019/4 ―2020/3

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 令和1年度の主な事業活動の実績

2019年度 トピック

パラスポーツ体験に大歓声！

「チャレンジ！ユニ★スポ」で多様性を理解・体感

「ボッチャ」は障害者スポーツとして誕生した競技ですが、幅広い年齢層や運動能力、障害の有無にかかわらず、参加する誰もが楽しみ、交流することができるスポーツです。当財団では、スポーツを通じて多様性への理解を深める機会として、学術調査を兼ねて静岡県下の小中学校15会場で体験授業「チャレンジ！ユニ★スポ」を開催し、約1,200名の児童、教員が楽しみながらボッチャを体験しました。

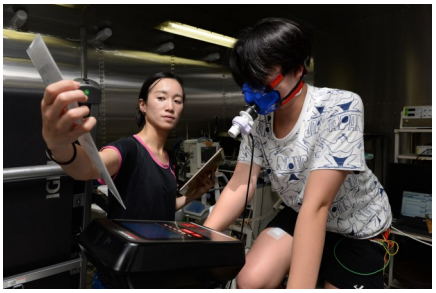
4 スポーツチャレンジ助成事業

スポーツチャレンジ助成

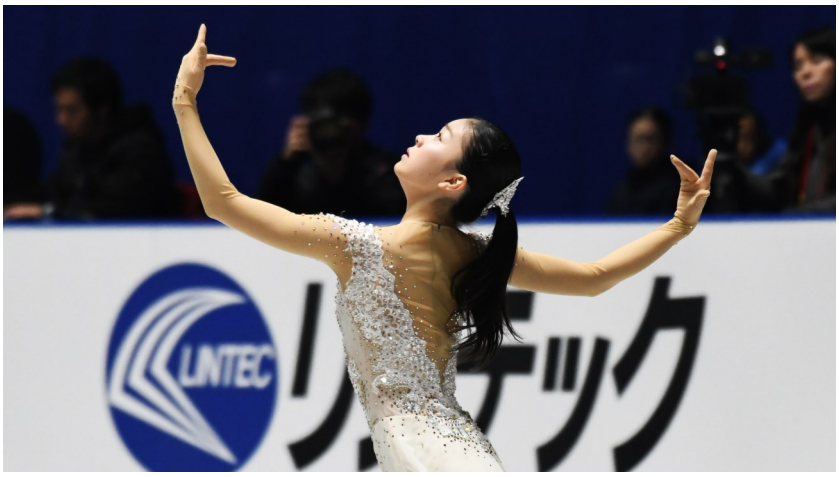
世界の舞台に果敢にチャレンジするジュニア世代

スポーツを通じて世界に羽ばたく逞しい人材の育成を目的に、高い志と目標、そして具体的な計画を持つチャレンジ精神旺盛なアスリートや研究者等の活動を助成する本事業は、2019年度（第13期）チャレンジャーとして29名を助成。成果と同様に成長プロセスを大切にする独自のPDCAプログラムや、異分野交流を通して取り組みを支援しました。また、2020年度（第14期）は35名（総額3,030万円）の助成を決定。近年の傾向としては、ジュニア世代から世界を舞台に果敢に挑戦する逞しいアスリートが増えています。なお、例年3月に開催している「スポーツ・チャレンジャーズ・ミーティング」は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、参加者の安全を最優先して中止としました。

北川雄一朗選手はパラ卓球選手権で優勝



研究チャレンジャー（第13期生）の岩田理沙さん



第13期生の吉岡詩果選手は、初の全日本フィギュアスケート選手権で全体10位（ジュニア2位）

半期を終えた秋口に中間報告会・座談会を実施

4 スポーツチャレンジ体験事業

ジュニアヨットスクール葉山

セーリングを通して子どもたちの逞しい成長を支援

セーリングスポーツを通して、心身ともに逞しい子どもたちの育成を目的とする当スクールは、小・中・高生合わせて34名で2019年の新年度をスタート。低学年は海や自然に親しむことを主眼に指導を進め、ジュニア・ユース世代は「自主・自律・想像力」や「競う心と技術」を養うため各種競技会にも積極的に参加しました。また、夏休み期間には（公財）日本ライフセービング協会の協力を得て、毎年恒例の「水辺の安全講習会」を開催し、自らの身を守る安全確保の基本を学びました。

中・高生年代は、競う心と技術を磨いた

保護者会では船上から練習を見学

スクールの拠点である葉山マリーナ周辺の水域で教室を実施

毎年恒例「水辺の安全講習会」も実施

第28回セーリング･チャレンジカップ IN 浜名湖

参加者の安全を最優先して開催を中止

毎年春休みに開かれる競技会として定着している「セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」は、今年度28回大会として（独法）日本スポーツ振興センターの助成を受け開催を予定していましたが、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、参加者の安全を最優先して中止しました。

スポーツ教材の提供

運動・スポーツの楽しさを実感！

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、全国の保育園・幼稚園、小学校、特別支援学校、スポーツ団体等を対象に実施している本事業は、2019年度、全国527校・団体から申請を受け、抽選会を経て120校・団体にスポーツ教材を提供しました。本年度もスポーツ教材を活用して、全国で約12,000名の子どもたちや教員・指導者の皆さんが参加した活動になりました。提供先による活動報告の模範的な事例は、当財団ウェブサイト等を通じて広く紹介しています。

（公財）日本スポーツ協会　泉正文副会長による抽選風景

タグラグビー体験会の開催

One Team でパスをつなごう！「はじめてのタグラグビー」

子どもたちのスポーツ機会の充実を目的に、当財団近隣の静岡県西部3市1町の小学校を対象として実施している指導サポート付きスポーツ教材の提供「はじめてのタグラグビー教室」は、ヤマハ発動機（株）の協力のもと、2019年度は4校で計5回開催。ラグビーワールドカップ2019日本大会開催までの6年間で42校を巡回し、スポーツの得意・不得意に関わらず多くの子どもたちや教員がタグラグビーに楽しく触れる機会になりました。

ラグビーワールドカップ2019の開催都市の一つであった静岡県西部地区で、6年間にわたり小学校42校を巡回しラグラグビーを指導サポート

第31回全国児童 水辺の風景画コンテスト

楽しかった水辺での発見・体験を、思い思いに描く

子どもたちが積極的に水辺に出かけることを啓発し、そこで発見・体験したことを描くことを通して、感性を育み、のびのびと成長するための一助となることを目的とした「水辺の風景画コンテスト」。第31回となる今年度は、全国の保育園・幼稚園、小学校、絵画教室等701団体から10,308作品の応募があり、審査会を経て、文部科学、国土交通、環境、農林水産各大臣賞を含む入賞43 作品と入選654作品を決定。大臣賞受賞者は、在籍校等の協力を得て表彰式を開催し、入賞作品は当財団ホームページに掲載するとともにヤマハ発動機コミュニケーションプラザにて展示・公開しました。

●特別協賛：ヤマハ発動機株式会社　●協賛：Love the Earth 実行委員会、三井住友海上火災保険株式会社、株式会社舵社、マルマン株式会社、株式会社ワイズギア　●後援：文部科学省、国土交通省、環境省、農林水産省、一般社団法人日本マリン事業協会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、NPO法人ジャッパンゲームフィッシュ協会、一般社団法人日本マリーナ・ビーチ協会、独立行政法人国立青少年教育振興機構、一般財団法人日本海洋レジャー安全・振興協会

4作品の大臣表彰式を幼稚園や小学校で実施

入賞作品をヤマハ発動機の施設で展示・公開

水辺の体験会の開催

親子で「水辺の安全」を学び・楽しみ、逞しく成長する機会に

ジュニアヨットスクール葉山の水辺活動の横展開として、親子で水辺や自然と触れ合い、活動するきっかけとなる機会を提供しようと、NPO法人浜松ライフセービングクラブの協力のもと、「親子で学ぶ 水辺の体験会」を浜名湖で開催。水辺での安全確保や楽しい乗り物体験。また、県立三ケ日青年の家との共同活動では、地元大学生と子どもたちが協力してダンボールボートづくりや乗船体験を楽しみました。

NPO法人浜松ライフセービングクラブの協力により、親子で「水の安全」を学び、楽しんだ

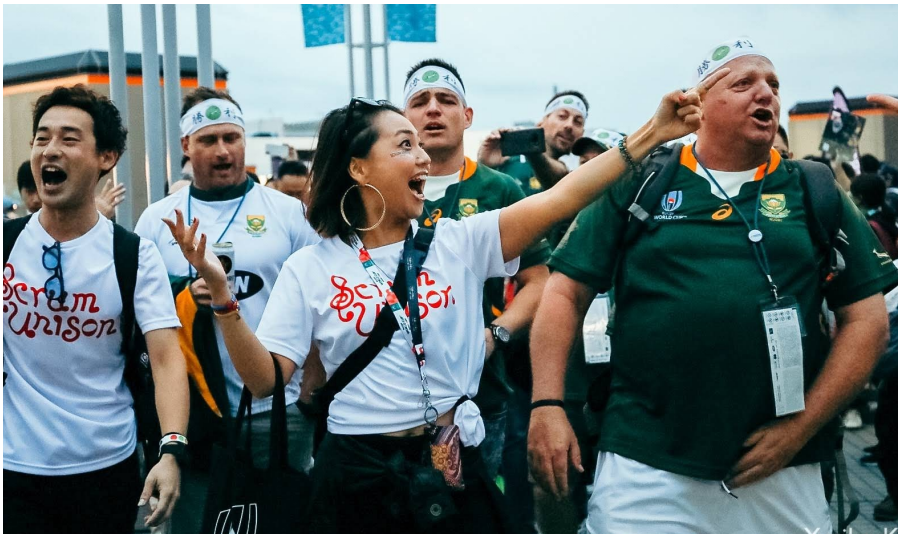
4 スポーツチャレンジ啓発事業

第12回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞

日本のスポーツを支える「縁の下の力持ち」を表彰

本事業では、スポーツ振興において多大な実績を残すとともに、その功績によって社会の活性化に貢献した「縁の下の力持ち」的な人物・団体を表彰しています。第12回となる2019年度は、奨励賞として、ラグビーワールドカップ2019日本大会で世界から集まる選手やファンを「国歌やラグビーアンセム（応援歌）」を歌って“おもてなし”を波及させたScrum Unison（スクラムユニゾン）を選出。また、前年度の功労賞・荒井秀樹氏（日本パラリンピックノルディックスキーチーム監督）と、奨励賞・日本スケート連盟スピードスケート科学サポートチームの足跡と功績を、当財団の特設サイト「BACK STORIES」で公開しました。

●後援：公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会



ラグビーワールドカップ2019でのScrum Unisonの皆さんの活動

特別サイト「BACK STORIES」

調査研究

地域現場と社会環境から障害者スポーツの実態を把握

調査研究プロジェクトは、スポーツ振興に関わる社会的な課題の解決に寄与するため、障害者スポーツをテーマとした地域現場の実態調査として①先進的な地域活動を展開する岩手県調査、②障害者スポーツ選手のキャリア調査、横断的な社会環境調査として③大学での先進事例を実施。２月には障害者スポーツ競技団体調査に基づくシンポジウムを開催し、障害者スポーツ競技団体の現状や東京パラリンピック後の課題などについて共有しました。

シンポジウム「障害者競技団体の課題と展望」を開催

情報発信

スポーツを楽しむ子どもたちや、チャレンジャーの笑顔を発信！

障害のあるなしに関わらず、誰もがスポーツを楽しむ社会の実現に寄与するため、スポーツを楽しむ子どもたちや、スポーツを通じて世界に挑戦するチャレンジャーの実像など、スポーツの楽しさ、魅力などさまざまな情報をスポーツ振興の現場からわかりやすく紹介してきました。

掲載情報の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。

www.ymfs.jp

公益財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports
〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500 TEL.0538-32-9827 FAX.0538-32-1112